

京都スタジアムを核とした地域振興について ＜成果報告＞

【後見人部局】

南丹広域振興局、政策企画部、文化スポーツ部、商工労働観光部

○南丹広域振興局

企画・連携推進課

主任 渡邊 涼平

税務課

主事 松本 康平

農商工連携・推進課

技師 山野 侑香

地域づくり振興課

技師 古川 智大

森づくり振興課

技師 武田 駿成

○総務部

自治振興課

主任 本 守宏

○政策企画部

企画参事付(森の京都DMO)

主事 市原 裕子

○健康福祉部

高齢者支援課

主事 右田 梨子

○京都産業大学現代社会学部

教授 鈴木 康久

研究概要

京都スタジアムは、球技場としてスポーツ振興の拠点となる施設だが、府中北部へのゲートウェイとしての役割も持っている。

京都丹波では、その集客力が地域振興の起爆剤となることが期待されているが、地元におけるスタジアム関連の取組は、周辺への集客やスタジアムにおけるスポーツ振興が中心となっている印象。

京都スタジアムが持つポテンシャルを最大限に引き出し、京都丹波全域をカバーする周遊・滞在型観光及び賑わいづくりを実現し、森の京都、海の京都のエリアへの拡がりも展望できる施策の立案を目指す。



研究概要(留意点)

- 研究を進めるに当たっては、**新型コロナウイルス感染症の影響を考慮の上、各種調査を行うこととする。**
検討する施策については、**WITHコロナ社会における実現性、効果を有するとともに、POSTコロナ社会においても発展性のある内容とする。**
- 施策の検討に当たっては、京都丹波地域の地域振興計画である「**新京都丹波ビジョン**」に記載の**京都丹波の魅力（食、自然・歴史文化、スポーツ）**を取り入れ、**地域性を活かした内容とする。**



京都スタジアムに係る各団体の施策取組状況

京都府（文化スポーツ部）

- 京のスポーツ夢づくり事業
- スタジアムにぎわいづくり推進事業

京都府（南丹広域振興局）

- 京都丹波サイクルツーリズム推進事業
- 京都丹波まるごと体感ツアー

亀岡市

- 亀岡まるごとスタジアム構想
- ホームゲーム時のマルシェ（屋台村）設置
- 市役所職員によるサンガウェア着用

スタジアム指定管理者（合同会社ビバ&サンガ）

- サッカー等試合開催（R2ホーム戦入場者：84,354人）
- コンサート等イベント開催

その他

- 京都サンガF.C.（地域イベント参加、アカデミー開催等）
- 地域団体（郵便ポストラッピング(亀岡市商店街連盟)等）

まだまだ独立した取組が多い印象

地域の課題・求められること(観光状況から)

観光状況

京都丹波への観光入込客数は概ね順調に増加しているが、一人当たり観光消費額は微増

京都丹波地域	2013年	2018年	増減
観光入込客数	599.9万人	786.7万人	約1.3倍
観光消費額	1,684円	1,759円	微増(5%弱増)

<参考：京都市状況（2018年）>

（出展：平成30年 京都観光総合調査）

※観光入込客数：5,275万人

※観光消費額：24,800円

※嵯峨嵐山周辺を訪れた観光客推計：1,197万人

外国人観光客の観光地認知度（亀岡市）

京都府亀岡市に嵯峨野トロッコ列車で訪れた外国人観光客の大半が、市内の他の観光地を「知らない」として帰っていることが、滋賀大留学生たちの調査で分かった。

<京都新聞記事2019年4月17日>

地域に人を呼び込むためにスタジアム・スポーツを活用

地域の課題・求められること

地域資源としてのスポーツ（京都丹波での考え方）

■新京都丹波ビジョン（南丹地域振興計画） ※抜粋

○「食」、「自然・歴史文化」、「スポーツ」を生かし地域活性化と交流拡大を推進

■「第5次亀岡市総合計画」 ※抜粋

○スポーツと豊かな自然や観光、食などの地域資源を結びつけにぎわいづくりを推進

○「する・観る・支える」の視点からスポーツ資源を最大限活用し交流を呼び起こす

スポーツを活用したにぎわい創出

スポーツ資源

京都美山サイクルロードレース

オリパラホストタウン

京都丹波トライアスロン大会in南丹

スタジアム

京都丹波ロードレース大会

サイクルコース

京都亀岡ハーフマラソン

アウトドアスポーツ

全京都車いす駅伝競走大会

京都トレーニングセンター

視点

支える人

観る人

体感する人



京都丹波をスポーツのメッカにしてにぎわいを創出！

課題解決のための新しい施策

視点

アイデア（ターゲット・地域資源の活用等）

支える

- スポーツボランティアの活動促進
 - 普段スポーツをしない方、京都丹波を訪れない方の誘客
- ⇒引きこもり、障害者等幅広い方がスポーツに関わる施策

観る

- 観戦や観光などで長期的に地域に関わる人を増やす
 - スタジアムや周辺のアクティビティ体験の魅力発信
- ⇒スタジアムを起点とした婚活イベント

体感する

- スタジアム訪問者に地域の豊富なスポーツ資源を発信
 - 様々なスポーツ体験で「スポーツの地域」の認知度を向上
- ⇒スタジアムを起点とした様々なスポーツの体感イベント

課題解決のための新しい施策

地域振興を目的とした「スタジアム×〇〇」施策

集客力のあるスタジアムを多角的に活用し地域の魅力を発信
周遊滞在型観光、地域の賑わいづくりを推進

①

「スタジアム」

×

「社会福祉」

②

「スタジアム」

×

「婚活」

③

「スタジアム」

×

「スポーツ」

各事業の相乗効果により、京都スタジアムを中心とした
スポーツのメッカづくりを推進

京都スタジアムに係る現状分析・課題把握

調査手法

①京都スタジアム（仮称）運営権P F I 事業
導入可能性調査 報告書（H30.2）

②京都スタジアムこけら落としイベントにおける
アンケート調査（R2.2.9）

③亀岡市ヒアリング（R2.1.31）

＜別グループによるヒアリング＞

④ビバ&サンガヒアリング（R2.3.2）

亀岡市・ビバ&サンガへのヒアリング

①スタジアム運営権PFI事業 導入可能性調査

【調査概要】

アウェイ戦をシーズン1回以上観戦している方を対象に行ったアンケート調査

【調査結果（抜粋）】

- アウェイ観戦のきっかけ ⇒ 旅行が主目的：18%
- サッカー経験の有無 ⇒ 経験者（いつもやっている、たまにやる）：47%
- アウェイ観戦時の宿泊利用 ⇒ 利用：50%

②京都スタジアムこけら落としイベント アンケート調査

【調査概要】

京都スタジアムこけら落としイベント（R2.2.9）での記入式アンケート調査

【調査結果（抜粋）】

- 試合運営に係るボランティア（清掃等）への希望度が高まる条件
⇒観戦チケットの提供：51%
- 京都丹波地域で体験してみたいスポーツ
⇒「サッカー・フットサル」「ボルダリング」「川下りアクティビティ」
- 婚活（出会いづくり）イベントへの興味
⇒ 有り：15% ※ファミリー層の回答が多い中、想定よりも多い割合

亀岡市・ビバ&サンガへのヒアリング

③亀岡市ヒアリング（R2.1.31）

- 地域の賑わいづくりに向け、滞在時間なるべく長くする取組を実施していきたい
- 亀岡まるごとスタジアム構想を打ち上げ、保津川下り、山関係、パラグライダーなどを組み合わせたアクティビティーを一体的に検討しているところ

④ビバ&サンガヒアリング（R2.3.2） ※他グループヒアリング

- 施設の空きスペースを埋める方策に苦慮しているので、マルシェなど、施設を利用したいという要望は大歓迎であり、日本酒の試飲イベントも開催予定
- eスポーツは、障害者の活躍の余地があり、サンガ戦と合わせたイベント実施の可能性もあるのではないかと

スタジアムに係る先進事例調査

先進地

①神奈川県川崎市（等々力陸上競技場）

<川崎フロンターレ>

- ・所属リーグ：J1
- ・2019ホーム平均観客数：23,272人

②山梨県甲府市（小瀬陸上競技場）

<ヴァンフォーレ甲府>

- ・所属リーグ：J2
- ・2019ホーム平均観客数：8,273人

<（参考）京都サンガ>

- ・所属リーグ：J2
- ・2019ホーム平均観客数：7,850人

神奈川県川崎市 先進事例

【川崎フロンターレ基礎情報】

- ・ホームグラウンド：等々力陸上競技場
- ・所属リーグ：J1
- ・ホーム平均観客数：23,272人

【先進事例】

障害者・引きこもり等就労体験（川崎市事業）

【内容】 障害者等対象のスタジアム清掃等の就労体験

【実績】 H26～R1：延べ287回、2,757人参加

【連携】 バスケットボール、バレーボール、相撲 等

【予算】 500千円 ※交通費相当額（NPOへ委託）

【反響】 「就労者の懸命に働く姿に感銘を受けた」 等



川崎市HP「フロンターレ就労体験体験レポート」
<https://www.city.kawasaki.jp/350/cmsfiles/contents/0000057/57994/281022frontale.pdf>

川崎市就労体験実施結果

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	計
実施数(回)	14	44	48	74	55	52	287
参加人数(人)	136	438	486	743	546	408	2,757
実人数(人)		136	261	347	239	175	1,158

山梨県甲府市（ヴァンフォーレ甲府） 先進事例

【ヴァンフォーレ甲府基礎情報】

- ・ホームグラウンド：小瀬陸上競技場
（山梨中銀スタジアム）
- ・所属リーグ：J2
- ・ホーム平均観客数：8,273人

【先進事例】

スタジアム婚活イベント「スタコン！」（H26）

【主催】（株）ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ実施

【参加者】25～39歳 33人 → カップル成立：4組

【予算】発生せず（参加料徴収）※試合観戦無料、スポンサーの結婚式場使用

【内容】試合見所説明、ミニゲーム（クイズ）、試合観戦 等

【反響】「今後も継続してほしい」「バスツアーをしてほしい」等

【その他】H30には山梨大学と連携した婚活イベントを実施（大学主催）



課題解決のための新しい施策

地域振興を目的とした「スタジアム×〇〇」施策

集客力のあるスタジアムを多角的に活用し地域の魅力を発信
周遊滞在型観光、地域の賑わいづくりを推進

①

「スタジアム」

×

「社会福祉」

②

「スタジアム」

×

「婚活」

③

「スタジアム」

×

「スポーツ」

各事業の相乗効果により、京都スタジアムを中心とした
スポーツのメッカづくりを推進

①「スタジアム」×「社会福祉」

事業概要

- サンガの試合と合わせて、ひきこもり、障害者などを対象に、スタジアム運営に関するボランティア（清掃、マルシェ販売など）を募集
⇒参加者には、サンガの試合無料観戦の特典
- 京都丹波で誰もが平等に楽しめる「ゆるスポーツ」やeスポーツ等の体験イベントを開催し、上記ボランティア参加者等に参加者を募る

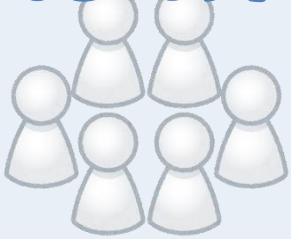
効果・狙い

- 遠出の機会が少ないと思われるひきこもり、障害者とその家族の方に、ボランティアをきっかけに京都丹波へお越しいただきファンを創出
- 普段スポーツしない方にスポーツをしてもらい、地域のスポーツイメージの定着を図ることで、スポーツのメッカづくりを幅広く推進
- コロナ禍で社会との関わりが閉ざされやすいひきこもりや障害者の方に就労や観戦、スポーツの機会を提供し。他者や社会との関わり創出
- 地域の方や訪れた方に、スポーツをきっかけに、障害者やひきこもりの方への理解を深めてもらい、共に支えあう社会づくりを推進

①「スタジアム」×「社会福祉」 モデル施策

I スタジアムにおける就労体験・試合観戦

障害者施設登録者
ひきこもり等



サンガ戦就労体験



試合観戦

eスポーツ体験



■予算：200千円
(交通費見合)

■運営：委託
・NPO
・シルバー人材
センター 等

サッカーやeスポーツをきっかけに地域へ訪問、他者との関わりづくり

II スタジアム等管内施設でのスポーツ体験

I 参加者等



【スタジアム周辺】

- eスポーツ体験
- ラフティング・馬車
- 地域食材バーベキュー



【丹波自然運動公園】

- ゆるスポーツ
- 散策・パターゴルフ
- 【味夢の里】食事・土産



■予算：300千円
(施設使用料等)
※食費等参加者負担

■運営：府直営
⇒アクティビティ等の
認知度や参加者間の
交流が高まった後は
自主的な開催を促進

家族で楽しめるコンテンツを活用し、食や自然等の地域の魅力を体感、ファンを創出

②「スタジアム」×「婚活」

事業概要

- サンガ戦観戦とアクティビティや農業体験等を行う婚活イベント実施
- サンガの試合の無い日に、eスポーツやボルダリング等のスタジアム内施設を用いた、スポーツ体験婚活イベントを実施
- 婚活イベント参加者に、観光やデートにおすすめのスポットとして、京都丹波地域のアクティビティや観光地情報の発信や割引券等を配付

効果・狙い

- 共通の趣味を持つ方をマッチングさせ、高いカップル成立率を狙う
- 婚活イベントをきっかけに観光やアクティビティ体験に訪れていただき、京都丹波のにぎわいを創出
- 成立したカップルにとって、スタジアムや周辺地域が思い出の地となることで、京都丹波ファンを創出し、関係人口や移住定住増加を図る
- 少子高齢化が課題となっている中で、モデル的な婚活事業を行うことで、地域への横展開や婚活や移住定住に係る取組の活性化を促進

②「スタジアム」×「婚活」モデル施策

I スタジアム周辺アクティビティ体験イベント（試合日）

スタジアム集合



【スタジアム周辺】

- ラフティング
- パラグライダー
- 七福神めぐりサイクリング

【スタジアム】

- 試合観戦
- ecoマルシェ
- カップリング
- 地域情報発信

スタジアムウエディング紹介や割引券配付も実施

- 予算：1,000千円
(2回実施を委託)
※食費、体験料
相当額を参加費
として徴収想定

II 京都丹波観光地周遊ツアー（非試合日）

スタジアム集合



【南丹市美山町】

- サイクリング
- 農業体験
- 地域の食



【スタジアム】

- バックヤードツアー
- カップリング
- 地域情報発信

- 運営：委託
※府主体で関係団体
と調整、連携
※地域資源を活用し
たツアー形式のため
森の京都DMOへの
委託想定

サンガファン・婚活会員への認知度向上、マッチング成果蓄積、イベントの質の向上
⇒ニーズの高まりによるイベント収益化 ⇒ 森の京都DMO主体の自走を想定

③「スタジアム」×「スポーツ」

事業概要

- 京都丹波の**新設サイクルコース**をスタジアムを起点に周遊しながら、**観光地や地域の食を満喫するサイクリングイベント**を実施
- 京都トレセン**（体力測定・運動）、**湯の花温泉**（宿泊・疲労回復）、**スタジアム**（観戦・ボルダリング等）などの**施設を巡るツアー**を実施

効果・狙い

- コロナ禍でも人気のあるサイクリング**を盛り込み、**地域の魅力を感じてもらうとともに、新たなサイクリングコースの定着を図る**
- スタジアムを訪れる**スポーツに関心の高い層に、スポーツ体験を通じて京都丹波の魅力を感じてもらうことで京都丹波ファンを創出**
- 運動施設を巡り観戦や体験をしてもらい、**スポーツを観て、体験して楽しめる地域のイメージを普及させ、スポーツのメッカづくりを推進**
- スポーツ体験に留まらず、**サイクリングやトレセンでの体力づくりを体験いただき、健康づくりに適した地域のイメージも普及**
- 試合日のスポーツ体験を導入に、**試合日以外の体験メニューも設定**

③「スタジアム」×「スポーツ」 モデル施策

I スタジアム起点サイクリイベント

自由行動（各自でコンテンツを選択）※非ツアー形式



【サイクルコース】
○完走者に記念品
○観戦チケットや
施設割引券配付
※開始時間等非設定

【スタジアム等】
○足湯、岩盤浴
○ボルダリング
○試合観戦
○ecoマルシェ

観光パンフや施設割引券を配付し後日の誘客も促進

■予算：400千円
（記念品、広報）

■運営：府直営
※完走者への記念品
等の配付のみ実施

II 京都丹波のスポーツ関連施設周遊ツアー



1. スタジアム
バックヤードツアー

2. 味夢の里
地域の食体験、土産

3. 京都トレセン
体力測定、運動

4. 湯ノ花温泉
食事、温泉、宿泊

5. コンテンツ
・ボルダリング
・ラフティング
・パラグライダー
・サイクリング

■予算：600千円
（1回実施を委託）

※食費、体験料
相当額を参加費
として徴収想定

■運営：委託
※森の京都DMOへの
委託を想定

個人で参加できるコンテンツ中心にし、サンガファンやサイクリングファン等のコミュニティ内での認知度が高まった後の自発的な再訪を促す（リピーター創出後の自走を見込む）

「スタジアム×〇〇」施策 ロードマップ

モデル事業

社会福祉

事前調整

事業実施

婚活

事前調整

事業実施

自走

スポーツ

事業実施

自発的なコンテンツ体験

新事業

上記取組の広報発信

地域団体等による新たな取組

※コロナ収束後は積極的な誘客を行うなど、感染拡大状況に合わせて取組内容を調整

地域振興を目的とした「スタジアム×〇〇」施策

「食」「自然・歴史文化」等
京都丹波の魅力

「スタジアム」×「社会福祉」

- ・ 障害者スポーツの振興
- ・ 誰もがスポーツへ関心を持ち交流する地域づくり
- ・ スポーツを支える人の増加を促進

「スタジアム」×「婚活」

- ・ スポーツに関心のある方の訪問・移住を促進
- ・ スポーツを観て楽しむ人の増加を促進

「スタジアム」×「スポーツ」

- ・ 地域に根付く幅広い種類のスポーツの振興
- ・ スポーツを体験して楽しむ人の増加を促進
- ・ 地域での体力づくり、健康づくりの促進

「スタジアム」×「〇〇〇」

地域課題の解決、新たな魅力の発信に資する
スタジアムの新しい視点での活用

スポーツを観て支えて体験する地域づくり

スポーツの活用による関係人口の増加促進

京都丹波をスポーツのメッカに！